

## 2010年度採集例会報告

日本甲虫学会の新しい学会としての記念すべき第一回の採集例会は7月31日から8月1日にかけて、前年と同じ場所である、岐阜県日和田高原キャンプ場において行われた。

岐阜県昆虫分布調査会の方の特別参加があり、参加者は29名であった。

昨年同様にコテージを借り切って独占し、他の客に気を遣うことなく、エンドレスで懇親を深めることができたと考える。

日和田高原ロッジの敷地も広大で虫も多かったが、トピックスとしては、宿泊したコテージ近くで、シリグロナカボソタマムシが2頭も採集されたことである。一頭目は斎藤正治氏が、車に止まっているものを採集され、それを聞いた蟹江昇氏が、翌日の朝にスウィーピングで得ている。われわれはそれと知らずに、シリグロナカボソタマムシの発生木の隣に寝泊まりしていたことになる。カミキリムシでは、ロッジの敷地内でニセハコネホソハナカミキリが相当な頭数が採集され、ジュウニキボシカミキリも数頭えられた。千間樽ではケベリカタビロハナカミキリ（松本忠之氏）、ゴマフキマダラカミキリが採集されている。

夕食後にコテージの敷地内で、今年は3基のライトトラップが仕掛けられた。内藤準哉氏、松本忠之氏、横関秀行氏らが、それぞれの創意工夫の設備を披露し、ライトトラップ展示会のようであった。

あいにくの雨交りではあったが、気温が下がらなかったため、虫はよく飛来し、ゴミムシをはじめとする多くの甲虫が集まった。

個人的にはヒゲナガヒメヒラタムシ、クロキノコムシダマシをはじめとする、甲虫図鑑に少ないと書かれている雑甲虫をいくつか採集できて、うれしい気持ちを味わえた第一回採集例会であった。

(横浜市青葉区 大木 裕)

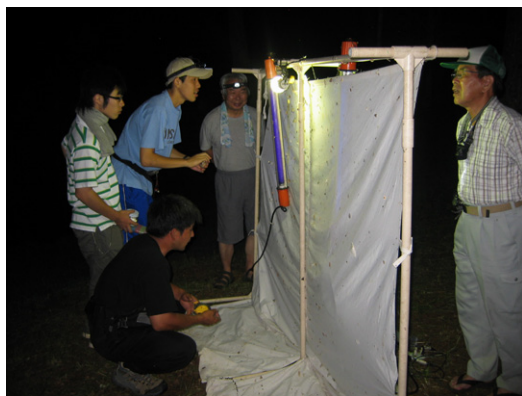


図1. ナイターの一場面



図2. 懇親の様子



図3. 集合写真

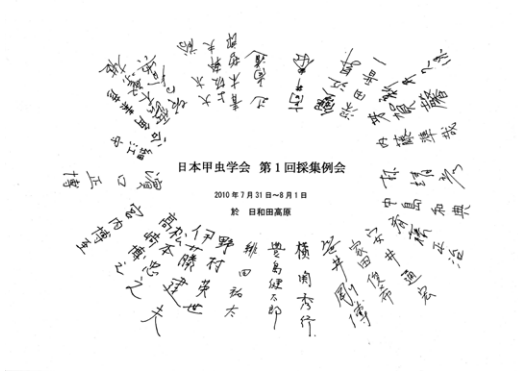


図4. 第1回採集例会サイン